

第4回あゆ有効活用計画検討会議 議事概要

■開催日時：令和4年2月15日（水）10:00～12:00

■開催場所：Web会議（本会場：高知会館3階 平安）

■出席委員：黒笹委員長、霜浦副委員長、東委員、岡林委員、西脇委員、林委員、林田委員、藤本委員、堀岡委員

■議事：

（1）パブリックコメントへの対応について

- ・別添資料1に基づき事務局より説明

（委員等からの主な意見）

- ・パブコメへの回答の中で、「(ウ) ビジョンを具体化していく中で検討課題とするもの」が一番重要であり、今後はこういった意見を視野に入れて活動していく必要がある。
（黒笹委員長）
- ・あゆを食やアクティビティにうまく活用している先進地に勉強に行かなければならない。（黒笹委員長）
→岐阜や栃木も注目しているという意見もいただいております、来年度事業で先進地視察も想定しているので、岐阜での勉強や連携の模索を考えている。（事務局）
- ・パブコメ No. 17 に書かれている情報提供のあり方について、カツオ県民会議では月一回ペースでカツオ漁の状況を公開しているが、あゆはそういったシステムそのものがまだないので、どういうシステムで誰がその情報を発信していくのかを真剣に考える必要がある。（黒笹委員長）
→県では、水産業のデジタル化を図るために高知マリンイノベーションという取組を行っており、そこで水揚情報や環境調査の情報などを発信する情報発信システムを作るようにしているので、今後、例えばその中であゆの漁獲情報を発信する仕組み作りを検討できるのではないかと考えている。（事務局）
- ・エサ釣りはやろうと思っても、エサが簡単に入手できるわけではないのですぐにできない。パブコメでエサ釣りに関する意見が出ているので、そこは内水面漁協任せにしないで、何らかの形で指針を出す必要があるのではないか。（黒笹委員長）
→あゆのルアー釣りやエサ釣りをきっかけとしてあゆの友釣りの敷居を下げることは、とても大切なことだと考えている。（事務局）
- ・「あゆを食べるのが嫌いな地元民も多い」、「あゆの漁獲が減り川漁師も減っている中で、なぜ今になってあゆを売り出すのか」といった冷ややかな意見もあるので、こういったご意見を出していただいた方たちを置いて行かないように、背を向けないようにすることが重要ではないか。（黒笹委員長）
- ・(No. 26 のコメントに対して) 高知に人を呼ぶというのは、今回の計画の柱の中で観

光振興にあたる部分であるが、観光振興は目的にも成りうるし手段にも成りうる。今回の計画は、県内のアユの売り上げをいかに伸ばすのか、県外にどう売っていくのかが最終的な目標。売り上げを伸ばすためには消費者に認知してもらう必要があり、認知してもらうための手段として、高知に人を呼ぶ広報活動（観光振興）を行う必要がある。この方は今後どちらに絞って取り組んでいくのかというご意見を出されているが、この意見に対する回答に、呼ぶことと売り出すことは相互に関係があるため、それぞれの取組がどのような位置付けになっていて、それをどういう順番で取り組んで行くのかといった見通しを示せば、理解してもらいやすくなるのではないかと。

（霜浦副委員長）

→今後、どういう流れで我々が作成したビジョンが実現に向けて進んでいくのかについて、次のスタートアップ時点までに、わかりやすい形で見える化していただくように事務局には願います。（黒笹委員長）

- ・人を呼び込むことと売っていくことは繋がっていることだと思うので、どちらかというのではなく、両方を一緒になってやらないと人も呼び込めないし物も売れないだろうと思う。（藤本委員）
- ・大都市圏でコマセを撒いて（PRして）、それをエサとして高知に連れてくるという流れが戦略的な意識付けとして必要だと考えている。（黒笹委員長）
- ・子どもは食べていただくというのを主としてやっているのですが、「あゆを食べるのが嫌いな地元民も多い」というのがすごく気になる。あゆを食べる機会が少ないというのが問題ではないか。目指さないといけないのは、カツオのように多くの店舗では扱えないかもしれないが、どこに行ってもあゆが食べられる環境づくり。それができてくれば、このような意見も少なくなってくるのではないかと。（林委員）
- ・あゆは嫌いな方や食べたことがないという方が非常に多かったが、鮮度のいいあゆを食べていただいたら、思っていた以上に美味しかったという方も多いので、「食べてもらう機会を多くする」、「いいものを食べさせる場所をきちんと整える」というのが一番いいと思う。（西脇委員）

（2）ビジョンの最終案について

- ・別添資料2に基づき事務局より説明

（委員等からの主な意見）

- ・ビジョンの25ページに推進体制のイメージがあるが、少し分かりにくいので、今後、このあゆの取組はどのような方向で何を目指しているのかについて、もう少しわかりやすい形で見える化していただきたい。（黒笹委員長）
- ・16ページの「キャンプ場やアクティビティ施設等と連携した観光客へのあゆの提供」について、例えばそのようなことにすでに取り組んでいる人たちはどういう形でや

っているのかということを見える化していただけたらいいと思う。(黒笹委員長)

→あゆビジョンが確定したら、今年度中にチラシを作成するようにしているので、その中では一般の方にもわかりやすい表現としたい。アクティビティの関連については、実際に実行していく段階で、例えば先進地の情報とかも収集しながら取り組んでいきたい。(事務局)

(3) その他

- ・別添資料3に基づき事務局より説明

(委員等からの主な意見)

- ・我々の計画は、まだ始まってもなく、来年度からこの取組が始まるわけなので、そういう中で皆様からご指摘いただいたわかりづらさに関することも、取組が徐々に皆様に見える化されていくことによって我々自身も説明しやすくなり、わかりやすくなっていくのではと思う。また、事業全体に関して言うと、我々がやるべきことは、あゆとあゆを育む豊かな河川環境、あゆの活用を再認識して、それを広めていくというこの一点に尽きるのだろうと思う。(岡村アドバイザー)
- ・漁協の方たちが今回の計画をどのように考えているか知りたいと思う。(黒笹委員長)
→友釣りだけでなく、色々な漁法(しゃくり、投網など)が体験メニューとして活用できるので、もう少し具体的に内容を検討し、そういう技術指導的なこともやっていけば、まだまだ人を呼び込める余地があると思う。(堀岡委員)
→私たちが今やっていることや、やりたいと思っていることが色々あるので、私達も地域の市町村や関係事業者と連携して、あゆの食、観光、環境保全等に取り組んでいきたいと考えている。(林田委員)
- ・この事業は県民の理解があつてこそ成果が出る。そのため、県民の方々、川と共に生きて来られた方々が、この事業に対してどのようなイメージを持っているのかがとても重要だと思うので、様々な形で県民の意見をこの事業に反映してほしい。(東委員)
- ・この事業の期間は2年間であり、具体的な取組に至るまでに様々なハードルがあると思うので、この2年間は準備期間と位置付けてじっくりと取り組み、実効性のあるものにしていただきたい。その中で、情報発信が重要だと思うが、情報発信する際には、県民がこの事業をどのように捉えているかを吸い取った形で発信していくことが重要だと思う。(東委員)
- ・資料3の「あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会」の中の、連携した取組を実施との記載について、ここを予算の調整も含めてどのように進めて行くかが一番重要だと思うが、その点について説明をお願いします。(岡林委員)

→あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会は助言などを頂く親会の位置付け。実際の実行部分については、例えば関係各課、市町村、実際に事業をされている西脇委員や林委員といった方に声をかけさせていただいて、取組ごとに役割分担したうえで、線表を作成して進めていくこととしており、それをまず第1回目の推進協議会に諮らせていただくということで考えている。また、情報発信などの重要な部分につきましても、必要に応じて作業部会をフレキシブルに開催し、取組を回していこうと考えている。(事務局)

- 自然豊かな高知県の河川をあゆとセットで売り出していくということがとても大切。あゆだけに拘泥されず、あゆをシンボリックなものとして活用し、それで高知県の自然や川の魅力をPRするいうスタンスでいいんじゃないかと思う。また、この2年間で色んな流域自治体において、住民がどのようにあゆを認識していて、その活用に対してどういう意見をお持ちかのアンケートを取り、様々な意見をピックアップして事業に乗せていくということが、この事業を円滑に進めていくためのカギになるのではないか。(東委員)

- 高知の貴重な文化、観光資源であるアユやアユ漁について情報発信するための「あゆ王国高知」というフェイスブックのアカウントを作成した。運用するにあたり、誰が運営者なのか、県の情報発信事業とオーバーラップしながら進めるのか、連携していくのかといったことについて今後皆様と協議していきたい。(岡村アドバイザー)

→今後どうやって情報発信をしていくのか、例えば自由に誰もが書き込みをできるようにするのか、色々とやり方があると思うので、その辺の議論をどのタイミングでやるのか、次の会議でそれをやるのかということも含めて協議が必要。(黒笹委員長)

→来年度の委託事業の中で各種 SNS に掲載するための記事の収集を予定しているので、収集した情報を岡村先生に作っていただいたフェイスブックにも掲載させていただきたい。フェイスブックの運営等については、来年度の作業部会の中で検討していくものと思う。(事務局)

- 内水面漁協では、遡上情報などをなんらかの形で上げて発信していると思うが、それらをポータルで集約できたらと思っているが、内水面漁協では、そのことについては可能ですか。(黒笹委員長)

→奈半利川淡水組合では、ホームページで発信している。(林田委員)

→それをリンクするとか、そういう形の動きを来年度やっていきたい(黒笹委員長)

→遡上や流下調査を過去何十年も続けているのでデータは揃っているが、公開する手段を持っていないので、公開する方法を考えていただいたら、公開は可能。(堀岡委員)

- SNS に記事を掲載する、情報を掲載できる形にするのに、ある程度のスキルと手間が必要。それを実現していくため、そういったスキルを持っている報道機関を推進会議

のメンバーに入れる必要があることを提案しておく。(黒笹委員長)